

#

..

### Weekly Reports 2018-2019



国際ロータリー第2680地区  
**Rotary**  
加古川ロータリークラブ



2018-19年度RI会長: パリー・ラジソ/地区ガバナー: 次野 宗司  
加古川ロータリークラブ会長: 岡田 義則 / 幹事: 水川 典明  
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F  
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

平成30年11月27日(火) 晴 No. 20



▲会長挨拶



▲佐野プロバスクラブ会長挨拶



▲乾杯の発声



▲城次々年度会長



▲会場にて



▲久後次々年度幹事

#### 会長挨拶

会長 岡田 義則

こんばんは、本日はプロバスクラブとの合同例会ということで夜の例会となっております。アフターファイブにも関わりませず、たくさんの方々にご参加いただき心よりお礼申し上げます。佐野プロバスクラブ会長をはじめ会員の皆様、ようこそ加古川 RC クラブにいらっしゃいました。短い時間ではありますが年に一度の貴重な機会を大いに楽しんで懇親を深めていただきたいと思います。

以前にもお話いたしましたでしたがプロバスは専門職務(Professional)と事業(Business)に携わっておられた引退者の関心に沿った組織です。頭文字をとって略してその組織をProbus(プロバス)Club(クラブ)と呼んでいます。語源はそういうことですが、一方ではラテン語で Probus は誠実という言葉からも援用したとの説もあります。

プロバスクラブで検索すると「加古川プロバスクラブ」と東播磨生活創造センターのホームページの中で紹介されています。こども・しぜん・まち・くらし・まなび・そうぞう、の6つカテゴリー中の『そうぞう』で分類されていました。その内容を読ませていただくと、目的は「会員の親睦と、共に生きる社会を創造する。」と記載されていました。詳しいことは書いてありませんでしたが皆さんも一度検索してみてください。

設立は1993年6月22日(火曜日)・・正に加古川ロータリークラブ40周年の年に設立さ

れており今年で設立25年(1/4世紀)の歴史を刻んでこられています。会員数は18名で今年には女性会員も入会されたともお聞きしております。女性会員に関しましては我が加古川 RC より一歩先んじておられます。詳しくはこの後で佐野プロバスクラブ会長のお話しをお聞きしたいと思います。

来週はもう次年度理事選挙の投票日です。本日、やっとお二人が御揃いになりましたのでもう今日のこの日しかないと思い、この時間をお借りして発表させて頂きます。それでは、次々年度会長、城会員と次々年度幹事、久後会員です。一言だけご挨拶をお願いします。・・・ありがとうございました。

### 幹事報告

1) 本日はありません。

### ニコニコ



省	略	◎	お久しぶりです。本日はお世話になります。
省	略	◎	佐野会長をはじめプロバスクラブの皆さまようこそ加古川RCへ。
省	略	◎	薬物乱用防止キャンペーンへの参加の藤本光一会員、田畑会員、釜谷会員、山本会員、河合会員、水川幹事ありがとうございました。所用の為、参加できなかったおわび。
省	略	◎	プロバスクラブの皆様本日は大変お世話になります。よろしくお願い致します。
省	略	◎	藤本光一会員、田畑会員、釜谷会員、山本会員、河合会員、25日の薬物乱用防止キャンペーンへの参加ご苦労様でした。
省	略	◎	加古川ロータリークラブ及び加古川プロバスクラブのますますの発展を祈念します。
省	略	◎	プロバスクラブの皆様との合同例会、楽しみです。
省	略	◎	テーブルの花いただきます。

以上8件 ¥17,000-  
本年度累計¥981,000-

### 出席委員会

☆ 今 週 会員数 76 名 出席 31 名 出席免除 18 名 欠席 27 名 53.44%  
☆ 欠 席 者 省略

☆ 前 々 週 会員数 76 名 出席 49 名 出席免除 18 名 欠席 9 名 84.48%  
☆ ゲ ス ト 加古川プロバスクラブ会員 13名  
☆ ビ ジ タ ー 桑田 祥夫氏(姫路南 RC)

### 親睦活動委員会

例会場当番

12月 4日(火) 石川、山本

12月11日(火) 松井、米田



## プログラム委員会

本日11月27日(火)	12月4日(火)	12月11日(火)	12月18日(火)
例会変更 プロバスクラブとの 合同例会 午後6時～ 於;加古川プラザホテル ボールルーム 社会奉仕(委)担当	総会・ クラブ協議会 次年度 理事選挙	卓話 「かこよみ春夏秋冬 に出演して」 吉田実 担当	例会変更 「年末家族例会」 15日(土)午後6時～ 於;加古川プラザホテル ロータリー家族(委) 担当

## 12月のおよろこび#

- ◆ 誕生日祝 省略
- ◆ 結婚記念日祝
- ◆ 出席表彰
- ◆ 会社創立記念日

## 世界ポリオデー 歴史的パートナーシップと成果を称えあう

### ロータリーと GPEI によりポリオの根絶が間近に

ポリオ撲滅活動の開始から 30 年。ロータリーと**世界ポリオ撲滅推進活動**(GPEI)のパートナー団体は、各地域での進展や数々の課題を経ながら、「ポリオのない世界」の実現に限りなく近づいています。

米国フィラデルフィアの **College of Physicians of Philadelphia** で水曜日に開かれたロータリーの第 6 回世界ポリオデーイベントでは、歴史上前例のない官民共同パートナーシップとポリオ撲滅への革新的戦略にスポットライトが当てられました。



会場には GPEI パートナー団体の代表者をはじめ数百人が集まったほか、ネットで世界中から数千人がこのイベントを視聴。イベントの進行役を務めたのは、著名ジャーナリストである**アシュリー・バンフィールド**さん(米大手テレビ局 HLN の番組「Crime and Justice」司会)と、**アレックス・ウィット**さん(MSNBC の番組「Live with Alex Witt」司会)の二人です。

フィラデルフィアは、ロータリーが GPEI への参加を発表した 1988 年ロータリー国際大会の開催地です。

ロータリー財団管理委員会のロン・バートン委員長は、次のように述べます。「ここフィラデルフィアでロータリーはポリオ撲滅への募金目標を 2 倍にすると発表。結果的に 2 億 4,700 万ドルを集めるに至りました」これこそ、全世界でこの病を撲滅するという大きな課題に挑み、そして人類史上最も野心的な公共保健の課題に取り組む GPEI を率いるロータリーの力を実によく表しています。GPEI では、ロータリーのほかに**世界保健機関(WHO)**、**UNICEF(国連児童基金)**、**米国疾病対策センター(CDC)**、**ビル&メリンダ・ゲイツ財団**が主要パートナーとなっています。



「ポリオ撲滅活動は長期戦であり、数々の課題に突き当たるであろうことは、当初からわかっていました。しかし、撲滅が可能であるという確信は、当時も今も変わりません。30 年前、ポリオ撲滅を約束し、この活動に乗り出した組織の一員であることを、私は誇りに思いました」

フィラデルフィア(米国)の College of Physicians of Philadelphia で行われた世界ポリオデーイベントに数百人が集まりました。

GPEI は、その発足当初から、数百万人というボランティアや保健従事者の研修と動員、どの保健活動も手の届かなかった地域での予防接種活動、医療が不十分な地域での保健介入、ポリオ症例とウイルスの世界的な監視(サーベイランス)の強化などに力を注いできました。こうした努力は莫大な成果をもたらしています。30 年前、年に 35 万人の子どもがポリオを発症していましたが、世界中での大規模な一斉予防接種キャンペーンにより、その数は 99.9% 以上減少。今年はずか 20 件にとどまっています。野生型ポリオウイルス常在国の数は、1988 年に 125 カ国でしたが、現在はアフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの 3 カ国のみとなっています。これまでに予防接種を受けた子どもの数は 25 億人以上、世界でポリオ撲滅活動に投入された資金は 140 億ドル以上に上ります。

イベントでは、ゲイツ財団のリー・ヘッグさん(ワクチン配給チームのシニアオフィサー)が、NBC シアトル支局のニュースキャスター、マーク・ライトさんとのビデオインタビューで、ポリオ撲滅のこれまでの進展と今後の課題について語りました。

「現在もポリオ症例が報告されているパキスタンとアフガニスタンでは、紛争や治安の不安定という大きな課題に直面しています。これが事実です」とヘッグさん。「こうした問題を解決する新しい方法を見つけなければなりません」

子どもにワクチンを投与するために治安の悪い地域で活動する予防接種従事者たちを称えるとともに、周辺にある交通要所や通過地点での予防接種が重要であると述べました。

ヘッグさんはこう加えます。「手段はそろっています。最後までやり抜く粘り強さもあります。そして、目標を必ず達成できるという自信を今も持ちつづけています」

質疑応答では、パキスタンの WHO サーベイランスオフィサー、ウジャラ・ナイアーさんが、ウイルス追跡の重要性について説明。ウイルスの伝播を食い止めるには、保健従事者がポリオウイルスを先回りする必要があると述べました。また、パキスタンが世界最大のポリオ環境監視ネットワークを有していることに言及しました。

「厳しい仕事です。しかし、私たちには政府、諸団体、地域社会のネットワークがあり、行く先々でウイルス検査をできます。ですから、ポリオがあればそれを確実に把握できる自信があります。パキスタンでは大きな成功を収めつつあります」。同国で一時 306 件に急増していたポリオ。今年に入ってはわずか 4 件のみです。

そのほかのゲストスピーカーとして、有名なシェフで自らもポリオサバイバーである [アイナ・ピンクニー](#)さんが自らのポリオ経験について話したほか、『Time』誌シニア編集者のジェフリー・クルーガーさんが [ナイジェリアでのロータリーのポリオ撲滅活動](#)に同行取材した体験を語りました。

さらに、ロータリー製作のドキュメンタリー映画『Drop to Zero』の一部シーンと、最新のバーチャリアリティ(VR)映像『Two Drops of Patience』の上映も行われました。

ポリオの認識向上や募金のために世界各地で行われている活動も紹介されました。デリー(インド)での活動では、2 千人ほどの会員がポリオ撲滅の旗やステッカーをつけた車や自転車です市内を回りました。エジプトでは、ロータリー会員が「End Polio フェスティバル」を開催し、ロードレース、献血、コンサートを通じて数千人もの来場客を集めました。

1985 年に「ポリオプラス」プログラムを開始して以来、ロータリーはポリオ撲滅に 18 億ドル以上を寄付。さらに今年 8 月、予防接種とサーベイランスを増やすためにさらに 9650 万ドルの補助金の提供を発表しました。補助金の大半は、ポリオウイルス常在国であるアフガニスタン(2290 万ドル)、ナイジェリア(1610 万ドル)、パキスタン(2170 万ドル)の 3 カ国で活用されます。残りの資金は、ポリオの危機にさらされているアフリカ 12 カ国での活動に充てられます。

ロータリーはまた、ポリオ撲滅のために 3 年間で年に 5000 万ドルを集める目標を掲げています。ロータリーがポリオ撲滅に充てた寄付に対して、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が 2 倍額を上乗せし、結果的に 3 年間で合計 4 億 5000 万ドルがポリオ撲滅に投入されることとなります。

